

科目名 (英)	関係法規 The related law and regulations/systems	年次	2	実務経験	担当	宗像純子
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1			
講師紹介	行政書士として法律実務に携わっております。自身が法律を学んだ経験から法律を学ぶコツ、国家試験での重要ポイントをみなさんにお伝えするとともに、法律がどのように実社会で関わりを持つのか、実際の事例をご紹介しますながら、法律を身近に感じてもらう授業をしたいと考えています。					
目的 科目概要	目的: 国家試験科目であることから、国家試験に十分合格できる基礎知識を習得する。特に美容師法は将来美容師となった際に直接関係するため、その具体的イメージを常に膨らませ基礎知識を学んでいく。 科目概要: 法律が実生活とどう関わってくるのか、その場面をイメージすることを重視し、具体的事例を多く取り入れ、学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取れるために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」「どうして」という自ら考える力をつけることに重点を置く。					
到達目標	美容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的な場面を説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているか、説明することができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A (4.0)、89点~80点B (3.0)、79点~70点C (2.0)、69点~60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	教科書(関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター)		事前事後学習とその内容 事後学習に重点を置くことが望ましい。小テストなど行うので、間違えたところについては必ず復習をすること。			
教材	毎回配布するプリント					
特記事項	毎回プリントを配布するため、「関係法規」のファイル(フラットファイル)を用意すること。第一回目の授業で詳細をお伝えする。					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	法制度の概要・法とは何か	難解と感じる法律について、まず法とは何かという点を理解する。具体的な事例を通じ、社会でどのように機能し、美容師となった場合にどのように関係してくるのか、法律の存在意義を知る。
2	美容師免許の取得方法	美容師養成施設へ入学し、国家試験を受け、免許を登録する、という美容師免許を取るためにすべきことを学ぶ。まさにこれから美容師免許を取得する自分がしなければならないことを知る。
3	用語の定義	普段使いの意味ではなく、法律上規定されている用語の意味をしっかりと理解する。「美容」「美容所」等の定義を学び、なぜ美容師は「顔そり」ができないのか、なぜ「エステ」に美容師免許がいらないのか、その根拠を知る。
4	美容師免許制度	免許取得後に免許記載事項に変更があった場合、紛失した場合などの免許の扱い方を学ぶ。美容師にとって美容師免許はとても大切なものであり、変更が生じた場合の対応の仕方を学ぶ。
5	美容師の守るべき義務	美容師になった際に最も気をつけなければならない、法律上美容師が負う義務を知る。
6	美容師に対する行政処分	美容師がやってはいけないことをした際にいかなる処分を受けるかについて学ぶ。美容師業務に大きな影響を及ぼすこのテーマの内容は今から意識し、絶対に処分を受けないようにする心構えを持つ。
7	中間試験・解説	試験を通じて自分の今の実力を知る。
8	管理美容師	「管理美容師」と呼ばれる、特別な資格を持った美容師について学ぶ。「管理美容師の仕事内容・資格の取得方法など管理美容師の全てを学ぶ。
9	美容所の開設	美容所をオープンさせることができる人は誰なのか、そしてそのためにはいかなる手続きを踏むべきなのか、流れと内容を習得する。自分が独立する際には必須となる知識を知る。
10	開設者が負う義務	開設者が美容所を開設した後に負うべき義務について、その内容と違反した場合のペナルティについて学ぶ。
11	立入検査・美容所以外の業務	美容所を開設した後に行政が行う立入検査の内容を知る。さらに、美容業が原則、美容所でのみ行われることを確認し、具体的事例を通じ例外場面について知る。
12	行政機関・保健所・衛生行政	美容師の社会での位置付けを知るために、いかなる分野の業種に振り分けられているかを学び、特に関わりの深い保健所の役割、業務内容、根拠法令を知る。
13	行政処分・罰則	美容師・開設者になった自分をイメージし、ペナルティとして受ける行政処分・罰則の内容を知るとともに、当事者にならないようにすべきこと、万が一当事者になった時にどうすべきか、の救済方法までを習得する。
14	定期試験	試験を通じて自分の今の実力を知る。2回目の定期試験であるため、問題の解き方にも意識を向けて受ける。
15	定期試験の返却・解説・法律の全体像	定期試験の解説については、誤った問題については特に、どこをどう間違ったかの修正を行う。今までの総まとめとして、日本では法律に基づく行政がどのように行われているか、大きな視点から法律を押さえる。

科目名 (英)	保健Ⅲ Health	年次	2	実務経験	担当	佐藤 麻衣
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	薬剤師免許を有し、病院や調剤薬局などで職歴のある講師が、保健分野をわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	美容師は人間の美と健康に携わる職業である。その職務を果たすため、保健分野について深い知識を持つことが必要である。					
到達目標	1年次の学習の復習を行うことで人体の構造及び皮膚科学について理解し、美容師国家試験に合格できるような保健の知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	化粧品化学・POINTBOOK			事前事後 学習と その内容	毎回、授業後に語群の問題の宿題あり。(数問)	
教材	適宜配布					
特記事項	筆記用具(色ペン・マーカー含む)を用意する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	頭部、顔部、頸部の体表解剖学	教科書p12～21
2	骨格器系、筋系	教科書p22～37
3	神経系	教科書p38～41
4	感覚器系	教科書p42～47
5	血液・循環器系	教科書p48～55
6	消化器系	教科書p56～65
7	中間試験	第1～6回の全範囲
8	皮膚の構造	教科書p68～77
9	皮膚の付属器官の構造、皮膚の循環器系と神経系	教科書p78～93
10	皮膚と皮膚付属器官の生理機能	教科書p94～107
11	皮膚と皮膚付属器官の保健	教科書p108～131
12	皮膚と皮膚付属器官の疾患	教科書p132～156
13	皮膚と皮膚付属器官の疾患	教科書p157～181
14	定期試験	第8～13回の全範囲
15	定期試験の振り返り	

科目名 (英)	化粧品化学 I Physics and Chemistry for Beauty	年次	2	実務経験	担当	佐藤 麻衣
		授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	前期
		単位	1			
講師紹介	薬剤師免許を有し、病院や調剤薬局などでの職歴のある講師が、実務でも役に立つ、化粧品の原料などをわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる化粧品についてを学ぶ。					
到達目標	化粧品の原料や配合、使用目的などを理解する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	化粧品化学・POINTBOOK	事前事後 学習と その内容	毎回、授業後に語群の問題の宿題あり。(数問)			
教材	適宜配布					
特記事項	筆記用具(色ペン・マーカー含む)を用意する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション、化粧品を理解するための基礎化学	教科書付録1～3
2	化粧品を理解するための基礎化学	教科書付録4～20
3	化粧品概論	教科書p9～30
4	化粧品用原料	教科書p31～40
5	化粧品用原料	教科書p41～49
6	界面活性剤	教科書p50～59
7	中間試験	第1～6回までの範囲
8	高分子化合物、色材	教科書p60～68
9	香料	教科書p69～73
10	その他の配合成分	教科書p74～81
11	ネイル、まつ毛エクステンション用材料、皮膚洗浄用化粧品、化粧水	教科書p82～92
12	クリーム・乳液、その他の基礎化粧品	教科書p93～104
13	メイクアップ用化粧品	教科書p105～121
14	定期試験	第1～15回の全範囲
15	定期試験の振り返り	

科目名 (英)	文化論 I theory of cultural	年次	2	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	スタイルとして海外実務経験の中で実際に海外文化を学びました。そして日本文化の素晴らしさは海外でも関心が高いこともわかりました。ファッションには歴史があり、現代ファッションに大きく関係しています。日本独特のファッション文化の成り立ちも楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	美容の歴史知ること「美しさ」の意味を知ることができる。美容師として関わる日本文化的な習慣は現代も続いており、技術を学ぶうえで、また施術するうえで理解を深めることは学生にとって、新しいスタイルを作るヒントになる。					
到達目標	西洋・日本ファッション文化を理解して「美しさ」の知識をお客様に伝えることが出来るようになる。 国家試験科目であることを意識して時代背景と流行(髪型・化粧・服装)を説明出来るようになる。					
評価方法	中間試験(20点) 期末試験(50点) 授業態度(30点) ■ 筆記試験					
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」		事前事後 学習と その内容	教科書を基本に時代背景、ファッション文化(髪型・化粧・服装)年表を作成することで、各時代の特徴を見つけることができる。		
教材	PowerPoint					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業説明(到達目標・評価基準・授業の進め方・授業ポイント・教科書の使い方) 「文化論」を学習する狙いを明確にする。
2	第4章ファッション文化史 西洋編 第1~3節	古代(エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマン)時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
3	第4章ファッション文化史 西洋編 第4~6節	中世ヨーロッパ・近世Ⅰ(16世紀)・近世Ⅲ(17世紀)時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
4	第4章ファッション文化史 西洋編 第7~9節	近世Ⅲ(18世紀)・近代Ⅰ(18世紀末~19世紀初め)・近代Ⅱ(19世紀) 時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
5	第4章ファッション文化史 西洋編 第10~12節	現代Ⅰ(1910年代~1920年代)・現代Ⅱ(1930年代~1940年代) 現代Ⅲ(1940年代後半~1950年代)時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
6	第4章ファッション文化史 西洋編 第12~16節	現代Ⅳ(1960年代)・現代Ⅴ(1970年代)・現代Ⅵ(1980年代) 現代Ⅶ(1990年代~2010年)時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
7	ファッション文化史 西洋編 総合まとめⅠ	前期 中間試験
8	ファッション文化史 西洋編 総合まとめⅡ	ふりかえり 年表を作成することで各時代の流行の特徴を確認する。
9	第1章 総論	理容・美容の語義 ・理容・美容と現代社会 ・文化史の中の理容・美容 理容師・美容師の仕事の中で 理容・美容の成り立ちの知識を理解する。
10		ファッション文化史 日本編を学ぶための基礎知識を理解する。
11	第3章ファッション文化史 日本編 第1~2節	縄文・弥生・古墳時代・古代(飛鳥・奈良・平安時代)時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
12	第3章ファッション文化史 日本編 第3~4節	中世(平安末・鎌倉・室町・戦国時代)・近世Ⅰ(戦国末・安土桃山時代) 時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
13	第3章ファッション文化史 日本編 第5節	近世Ⅱ(江戸時代)時代背景を理解する。 この時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
14	ファッション文化史 日本編 まとめⅠ	後期 期末試験
15	ファッション文化史 日本編 まとめⅡ	ふりかえり 後期授業内容(資料・問題作成)について説明することで、学習意識を高める。

科目名 (英)	衛生管理Ⅱ Hygiene management	年次	2	実務経験	担当	渡邊隆
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	都度					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	感染症の概要と歴史	感染症とはどういう物であるのかまた先人たちの功績について学ぶ
2	感染症における分類	感染症の3つの分類について分類の特徴とそれに含まれる感染症について学ぶ
3	病原微生物の病原体の違いと特徴	病原微生物であるウイルスや細菌について組織成分や生活環境についての違いについて学ぶ
4	感染症各論 その1	呼吸器感染症について学ぶ
5	感染症各論 その2	消化器感染症について学ぶ
6	感染症各論 その3	血液・接触感染、動物等から感染する感染症について学ぶ
7	中間試験	感染症全範囲
8	消毒の仕組みと	微生物を殺菌、消毒などの言葉の意味と消毒における仕組みを学ぶ
9	理学的消毒法	紫外線、煮沸、蒸気消毒について学ぶ
10	化学的消毒法 その1	エタノールおよび次亜塩素酸ナトリウムの消毒について学ぶ
11	化学的消毒法 その2	界面活性剤2種およびグルコン酸クロロヘキシジンの消毒について学ぶ
12	希釈法 計算方法	カルピスを使って消毒液の希釈法の実際を体験する
13	被消毒物に対して適した消毒法	消毒をするものに対し素材等により最適な消毒法を学ぶ
14	定式試験	感染症および消毒法の全範囲
15	試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	美容技術理論Ⅲ Beauty technical theory	年次	2	実務経験	担当	加藤 亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30	開講区分	前期	
学科・コース	美容師科	単位	1	曜日・時間	月2, 3限 火4限	
講師紹介	現役美容師の講師が、国家試験筆記対策に向けた講義を行います。実際の実務にリンクできるような提案をめざします。					
目的 科目概要	国家試験対策(筆記)として、教科書の内容と、練習問題を解けるようにすること。美容師として、業界の必要な知識を、学び、実際のサロンワークなど、経験値と結びつける練習をしていく。					
到達目標	国家試験(筆記)の練習問題を解くことができる。基本の名称や、手順、目的を理解し覚える。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	運営管理(日本理容美容教育センター)			事前事後 学習と その内容	授業プリントをファイリングしておくこと。わからない単語が出てきたら、検索をして調べること。	
教材	配布用プリント、チームズなど適宜使用					
特記事項	教科書、配布物用のファイル、蛍光ペン、筆記用具は必須です。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	12章 着付けの理論と技術	着付け1.2.3.4/.17.18(着物のいろいろ、礼装、花嫁)
2	12章 着付けの理論と技術	着付け5.6.7.8(帯、小物、名称)
3	12章 着付けの理論と技術	着付け(着付けにおける注意事項)
4	11章 日本髪	日本髪1.2.3.4(P113～)/頭の名称振り返り
5	11章 日本髪	日本髪5.6.7.
6	11章 日本髪	日本髪8.9
7	中間試験	1回～6回までの内容で試験を行う
8	3章 ヘアデザイン	(教科書美論1)P65～85
9	3章 ヘアデザイン	(教科書美論1)P65～85
10	シャンプー振り返り	ポイント振り返りと練習問題
11	パーマ振り返り	ポイント振り返りと練習問題
12	ヘアセット振り返り	ポイント振り返りと練習問題
13	カラー(色の基本)振り返り	ポイント振り返りと練習問題
14	定期試験	8回～13回の内容で試験を行う
15	前期振り返り	前期振り返り/試験解内容解説

科目名 (英)	運営管理 Operational management	年次	2	実務経験	担当	加藤 亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	現役美容師の教員が、運営管理の学習を通じて、将来像やキャリアプランを想像できるような内容で授業を展開する。経営者の視点を持ちつつ、自分がどう選択していくか、今後の人生を豊かに設計できるようになってほしい。					
目的 科目概要	経営者の責任、役割を学ぶと同時に、労働者の権利、働くうえで求められることを学ぶ。顧客満足の実現について学ぶ。					
到達目標	経営管理、税金、社会保険、会計、接客など、身近ではない言葉がたくさん出てきます。かみ砕いた例題を多様するので、言葉の意味をよく想像し、メモを取ったり自ら調べること引き出しを増やすことになっていく。また、後期に国家試験対策として振り替えられるような、ファイルづくりをする。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	運営管理(日本理容美容教育センター)		事前事後 学習と その内容 国家試験対策用に授業プリントをファイリングしておくこと。わからない単語が出てきたら、検索をして調べること。			
教材	配布用プリント、チームズ					
特記事項	運営管理用のファイルを用意してください。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	授業の説明・経営とは	授業の説明・経営者の責任とは/経営資源とは何か
2	理容業・美容業の現状と競争	人口推移と美容業界の現状
3	資金管理と会計	資金管理について学ぶ・会計、納税方法
4	税金について①	税金の種類と支払うタイミングについて
5	税金について②	申告納税制度・青色申告について
6	人という資源・労務管理	労働三法、労働基準法を学ぶ
7	中間試験	1～6回までの内容から 20点
8	人をやる気にさせるために	給与・待遇・労働者の権利
9	労働安全衛生法	労働安全衛生法と健康診断
10	健康管理の基本	美容師の仕事とけんこうについて
11	社会保険①	国民年金について(制度・被保険者・給付・保険)
12	社会保険①	厚生年金について(制度・被保険者・給付・保険)
13	社会保険②	健康保険について(制度・被保険者・保険)
14	定期試験	8から13回までの内容から 50点
15	社会保険②	定期試験の振り返り /国民健康保険について

科目名 (英)	美容実習Ⅲ総合 Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	宮城裕美 小坏亜矢子 竹内有美 本城実美
		授業形態	実習			
		時間数	180	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	6			曜日・時間
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための技術・知識・心得を習得する授業を行う					
目的 科目概要	目的:国家試験にむけて全頭20分で負けるようにする 概要:衛生の用具や国家試験の流れを習得できる					
到達目標	美容師の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	必要な用具類は早めに準備し忘れ物のないように臨んでください。	
教材	WD用具一式					
特記事項	用具の使い方や指の動きを自分で分析し確認していくこと					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	国家試験の衛生について	準備物の説明 衛生試験説明
2	準備物の確認	タイムトライアル
3	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
4	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
5	中間試験について	タイムトライアル
6	中間試験の流れ	タイムトライアル
7	中間試験	タイムトライアル
8	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
9	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
10	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
11	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
12	衛生の流れ 国家試験スタイル	タイムトライアル
13	定期試験について	衛生審査項目、時間配分確認、実技審査項目把握
14	定期試験の流れ	衛生審査項目、時間配分確認、実技審査項目把握
15	定期試験	本番同様の試験実施

科目名 (英)	就職講座Ⅲ Career Development	年次	2	実務経験	担当	岩本理絵 我妻優子 福田美幸 南本和幸
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1		曜日・時間	金1, 4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、自己肯定感を高めることで自己PR力を身に付ける。そして希望就職先へ内定できるようになる。 ②積極的に笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書						
教材	手帳・筆記用具(ボールペン・シャーペンどちらも準備)			事前事後 学習と その内容	スケジュールの管理をしっかりを行い、時間管理・体調管理を整えて授業に臨みましょう。グループワークでは自身の発表を進んで出来るように準備しておきましょう。	
特記事項	メモをする習慣を身につける。					

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己分析	日常行動スコアシートを使用し、自身のタイプを知りクラス内や社会に出たときにどのような行動をすることが出来るのかを知り、考える。
2	偏愛マップをつくる	偏愛マップの作成をし、グループワークで仲間の特徴を知る。その後、他己紹介としてクラスの仲間の特徴をクラス全体に発表する。仲間の特徴を知り、発表することでプレゼン力を身に付ける。
3	クラス会議	テーマ『ハッピー探し』GWで起きた出来事・自身で行動したことなどハッピー探しをして自己肯定感を高める。
4	面接対策	4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
5	面接対策	前回のチームとは別の4人1組。面接官役・受験者役に別れて模擬面接をチームで行う。
6	クラス会議	テーマ『現代社会について、今とこれからで自分たちにできる事』
7	中間試験	企業側の目線に立ち、『現代社会どのような人材がを求めているか』を考えてまとめる 800文字以内
8	社会人基礎力を身につける 国家試験筆記対策	社会人としてのマナーを身につける。上座・下座について学ぶ。 国家試験筆記問題
9	社会人基礎力を身につける 国家試験筆記対策	社会人としての言葉使いを覚える。敬語・丁寧語を正しく学ぶ。 国家試験筆記問題
10	クラス会議 国家試験筆記対策	前回のクラス会議で決めた議題について話し合う。 国家試験筆記対策
11	自分の強みについて考える 国家試験筆記対策	認知特性を使って自分の得意なことを知る。得意なことをどのように強みに変えていくかを考える。 夏休み課題について 国家試験筆記問題
12	グループワーク 国家試験筆記対策	想定した顧客のニーズを満たせる賞品を話し合い、売るといふ軸からブレない力を身に付ける。 例)鉛筆を3万円で売るにはどうしますか 国家試験筆記対策
13	クラス会議 国家試験筆記対策	前回のクラス会議で決めた議題について話し合う。 国家試験筆記対策
14	定期試験 国家試験筆記対策	社会に出ていくために必要なことについてまとめる。800文字以内 国家試験筆記対策
15	定期試験振り返り 国家試験筆記対策	14回で考えたことを全体で共有する。5年後、10年後のビジョンについて考える 国家試験筆記対策

科目名 (英)	美容総合技術Ⅲ Comprehensive beauty technology	年次	2	実務経験	担当	福島裕司 井上浩秀 大和田一樹 足立祐季 岩本理絵 我妻優子 福田美幸 南本和幸 武田郁乃
		授業形態	演習			
		時間数	180	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	6			曜日・時間
講師紹介	美容室・ヘアメイク現場・ブライダル業界などの各美容業界で活躍しており、高い技術力と多様な知識を持っている講師から、美容業界の現場で必要とされる知識、技術を実践的に活用できる授業の提供する。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■ 実技試験 ■ 作品					
教科書						事前事後 学習と その内容
教材						
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授業計画

回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定しロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく

科目名 (英)	化粧品化学Ⅱ Physics and Chemistry for Beauty	年次	2	実務経験	担当	佐藤 麻衣
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	薬剤師免許を有し、病院や調剤薬局などでの職歴のある講師が、実務でも役に立つ、化粧品の原料などをわかりやすく講義する。					
目的 科目概要	国家試験科目・美容全般にかかわる化粧品についてを学ぶ。					
到達目標	化粧品の原料や配合、使用目的などを理解する。 国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	化粧品化学・POINTBOOK		事前事後 学習と その内容	毎回、授業後に語群の問題の宿題あり。(数問)		
教材	適宜配布					
特記事項	筆記用具(色ペン・マーカー含む)を用意する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	頭髮・毛髪用化粧品(シャンプー剤・スタイリング剤)	教科書p124～132
2	頭髮・毛髪用化粧品(パーマ剤)	教科書p136～141
3	頭髮・毛髪用化粧品(カラー剤・育毛剤)	教科書p143～155
4	芳香製品等	教科書158～164
5	語群問題	必要な成分名などをしっかり覚える。
6	語群問題	必要な成分名などをしっかり覚える。
7	中間試験	第1～6回までの範囲
8	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
9	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
10	× 問題	問題の文章を、きちんと訂正できるようにする。
11	4択問題	本番の問題形式になれる。
12	4択問題	本番の問題形式になれる。
13	4択問題	本番の問題形式になれる。
14	定期試験	前後期の全範囲
15	定期試験の振り返り	

科目名 (英)	衛生管理Ⅲ Hygiene management	年次	2	実務経験	担当	渡邊隆
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	薬剤師として調剤薬局や老人施設などの現場で最新の情報を常に得られる環境にて仕事をしています。また薬系の大学や専門学校で講師を務めています。教科書の内容だけでなく最新の情報を授業に生かしていくことを心がけています。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問ずつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	各章終了時に小テストを行うので予習より復習		
教材	都度					
特記事項						

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	公衆衛生の復習 その1	WHOや歴史上の人物の功績、美容師と公衆衛生の関わりについて国家試験レベルまで復習する
2	公衆衛生の復習 その2	母子保健、成人・高齢者保健について国家試験レベルまで復習する
3	公衆衛生の復習 その3	精神保健について国家試験レベルまで復習する。
4	環境衛生の復習 その1	人間における環境要因、空気的环境について国家試験レベルまで復習する。
5	環境衛生の復習 その2	衣服・住居の衛生、上下水道と廃棄物について国家試験レベルまで復習する
6	環境衛生の復習 その3	衛生害虫とネズミ、衛生管理要領について国家試験レベルまで復習する。
7	公衆衛生・環境衛生 確認テスト	1～6までの内容について知識の確認をすると共に解説することで知識のフィードバック
8	感染症の復習 その1	感染症の歴史・分類について国家試験レベルまで復習する
9	感染症の復習 その2	病原微生物の大きさや構造および生活環境、感染症の予防について国家試験レベルまで復習する。
10	感染症の復習 その3	呼吸器および消化器感染症について国家試験レベルまで復習する。
11	感染症の復習 その4	血液・接触感染および動物からの感染症について国家試験レベルまで復習する。 感染症 確認試験
12	衛生管理技術の復習 その1	消毒についての基礎知識を国家試験レベルまで復習する。
13	衛生管理技術の復習 その2	各種消毒法および材質による消毒法について国家試験レベルまで復習する。
14	定期試験	
15	期末試験の解説	試験の解説をおこない知識の再確認する

科目名 (英)	文化論Ⅱ theory of cultural	年次	2	実務経験	担当	青柳光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	1			曜日・時間
講師紹介	スタイルとして海外実務経験の中で実際に海外文化を学びました。日本文化の素晴らしさは海外でも関心があり、高く評価されています。ファッションには歴史があり、現代ファッションに大きく関係しています。日本独特のファッション文化の成り立ちも楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	美容の歴史を知ることで「美しさ」の意味を知ることができる。美容師として関わる日本文化的な習慣は現代も続いており、技術を学ぶうえで、また施術するうえで理解を深めることは学生にとって、新しいスタイルを作るヒントになる。					
到達目標	日本ファッション文化を理解して「美しさ」の知識をお客様に伝えることが出来るようになる。 国家試験科目であることを意識して時代背景と流行(髪型・化粧・服装)を説明出来るようになる。					
評価方法	中間試験(20点) 期末試験(50点) 授業態度(30点) ■ 筆記試験					
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」		事前事後 学習と その内容	自分自身の学び方を見つけて、国家試験に向けての資料と問題を作成する。また、プレゼンテーションを行い理解を共有する。		
教材	PowerPoint					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	第3章ファッション文化史 日本編 第6節	近代(明治時代)時代背景を理解する。 この時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
2	第3章ファッション文化史 日本編 第6節	近代(大正時代)時代背景を理解する。 この時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
3	第3章ファッション文化史 日本編 第6節	近代(昭和20年まで)時代背景を理解する。 この時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
4	第3章ファッション文化史 日本編 第7節	現代Ⅰ(1945～1950年代)時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
5	第3章ファッション文化史 日本編 第8節	現代Ⅱ(1960～1970年代)時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
6	第3章ファッション文化史 日本編 第9～10節	現代Ⅲ(1980～1990年代)・現代Ⅳ(2000年以降)時代背景を理解する。 各時代に流行した髪型・化粧・服装を学び知識を深める。
7	ファッション文化史 日本編 総合まとめⅠ	後期 中間試験
8	ファッション文化史 日本編 総合まとめⅡ	ふりかえり ファッション文化史日本編の重要ポイントを確認する。
9	礼装の種類	和装の礼装・洋装の種類と特徴の理解を深める。
10	年表解説	年表解説後、資料・問題作成をすることで教科書の重要ポイントを確認、理解する。 プレゼンテーションを行い、問題と解説を共有する。
11	年表解説	年表解説後、資料・問題作成をすることで教科書の重要ポイントを確認、理解する。 プレゼンテーションを行い、問題と解説を共有する。
12	年表解説	年表解説後、資料・問題作成をすることで教科書の重要ポイントを確認、理解する。 プレゼンテーションを行い、問題と解説を共有する。
13	年表解説	年表解説後、資料・問題作成をすることで教科書の重要ポイントを確認、理解する。 プレゼンテーションを行い、問題と解説を共有する。
14	文化論 総合まとめⅠ	後期 定期験
15	文化論 総合まとめⅡ	ふりかえり 国家試験までの文化論勉強計画を立てる。 教科書を理解出来ているかを確認する。

科目名 (英)	美容技術理論Ⅳ	年次	2	実務経験	担当	武田郁乃、南本和幸 助手 宮城裕美 本城美実
	Beauty technological theory	授業形態	講義			
学科・コース	美容師科	時間数	60	有	開講区分	後期
		単位	2		曜日・時間	月1, 3, 4限 金1, 2,4限
講師紹介	長年美容師経験をしている講師が美容師の国家試験に受かるための知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。国家試験筆記に必要な知識を身につけ、合格を目指す。					
到達目標	美容技術の基礎知識を理解し、習得する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容技術理論1・2			事前事後 学習と その内容	授業の後復習をし、実技では理論を思い出しながら臨んでほしい。	
教材						
特記事項	ノート・筆記用具(ペン・マーカーを含む)を用意する。					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	○×問題	○×問題 解説
2	○×問題	○×問題 解説
3	○×問題	○×問題 解説
4	語群問題	語群問題 解説
5	語群問題	語群問題 解説
6	語群問題	語群問題 解説
7	中間試験	
8	過去問	過去問 解説
9	過去問	過去問 解説
10	過去問	過去問 解説
11	過去問	過去問 解説
12	過去問	過去問 解説
13	過去問	過去問 解説
14	過去問	過去問 解説
15	定期試験	

科目名 (英)	美容実習Ⅳ総合 Beauty Practice	年次	2	実務経験	担当	竹内有美 宮城裕美 小坏亜矢子、本城実美
		授業形態	実習			
		時間数	180	有	開講区分	
学科・コース	美容師科	単位	6		曜日・時間	火1, 2限、木1~4限
講師紹介	美容師経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導し、個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶことの苦手意識が克服出来るように努め、主体性が発揮出来る授業展開を目指す。					
目的 科目概要	目的:国家試験にむけて目標タイムで巻けるようにする 概要:衛生の準備物や国家試験の流れを習得できる					
到達目標	国家試験で決められたタイムで全頭巻くことができる 国家試験の衛生の準備物を説明できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 作品					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前後 学習と その内容	ロッドを1分に3本巻けるように指を慣らしておくとい。	
教材	WD用具一式					
特記事項	毎回のタイムに集中し仕上がった作品を確認する					

授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業内容
1	前期のふりかえり 用具の確認	衛生審査項目、実技審査項目の確認
2	国家試験スタイル	タイムトライアル
3	国家試験スタイル	タイムトライアル
4	国家試験スタイル	タイムトライアル
5	中間試験について	タイムトライアル
6	中間試験の流れ	タイムトライアル
7	中間試験	
8	国家試験にむけて	タイムトライアル
9	国家試験にむけて	タイムトライアル
10	国家試験にむけて	タイムトライアル
11	国家試験にむけて	タイムトライアル
12	国家試験にむけて	タイムトライアル
13	定期試験について	タイムトライアル
14	定期試験の流れ	タイムトライアル
15	定期試験	

科目名 (英)	就職講座Ⅳ Career Development	年次	2	実務経験	担当	岩本理絵 我妻優子 福田美幸 南本和幸
		授業形態	演習			
学科・コース	美容師科	時間数	30	有	開講区分	後期
		単位	1			
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	目的:グループワークや個人ワークでの自己分析、チームで働くことの大切さを学び社会人基礎力に必要な3つの能力【前に踏み出す力】【考え抜く力】【チームで働く力】を身に付ける。					
到達目標	①自己発見を行い、自己肯定感を高めることで自己PR力を身に付ける。そして希望就職先へ内定できるようになる。 ②積極的に笑顔であいさつができるようになり、接客に必要な身構え・気構え・心構えを身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	センターからの配本		事前事後 学習と その内容	毎週前回の内容について小テストを行うので予習より復習		
教材	新社会人の基礎力109					
特記事項						

授業計画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	マネー教育・7つの習慣 国家試験対策	給与や保険について・7つの習慣とは何かを学ぶ 第6章社会人としての自分を守り高める 選挙権について 国家試験対策問題
2	社会人基礎力を身に付ける① 国家試験対策	チームで働く力をグループワークで学ぶ 国家試験対策問題
3	社会人基礎力を身に付ける② 国家試験対策	新社会人の基礎力109より 『社会人基礎力』とは何か? 求められる3つの能力と12の能力要素 国家試験対策問題
4	社会人基礎力を身に付ける③ 国家試験対策	前に踏み出す力/主体性—ものごとに進んで取り組む力 前に踏み出す力/働きかけ力—他人に働きかけ巻き込む力 国家試験対策問題
5	社会人基礎力を身に付ける④ 国家試験対策	前に踏み出す力/実行力—目標を設定し確実に実行する力 考え抜く力/課題発見力—現状を分析し目的や課題を明らかにする力 国家試験対策問題
6	社会人基礎力を身に付ける⑤ 国家試験対策	考え抜く力/計画力—課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力 考え抜く力/創造力—新しい価値を生み出す力 国家試験対策問題
7	中間試験	社会人基礎力について(作文) 今まで学んできた社会人基礎力を今後どのように生かしていくか。 国家試験対策問題
8	社会人基礎力を身に付ける⑥ 国家試験対策	チームで働く力/柔軟性—意見の違いや立場の違いを理解する力 チームで働く力/状況把握力—自分と周囲の関係性を理解する力 国家試験対策問題
9	社会人基礎力を身に付ける⑦ 国家試験対策	チームで働く力/規律力—社会のルールや人との約束を守る力 チームで働く力/ストレスコントロール力—ストレスの発生源に対応する力 国家試験対策問題
10	社会人基礎力を身につける⑧ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 社会に出るにあたっての決意を固めておく・3ヵ月頑張れば3年頑張れる 国家試験対策問題
11	社会人基礎力を身につける⑨ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 契約することの重みを知っておこう・悪質な商法にひっかからない、加担しない 国家試験対策問題
12	社会人基礎力を身につける⑩ 国家試験対策	第6章 社会人としての自分を守り高める 各種保険の知識・賃貸住宅の借り方と住まい方の常識 国家試験対策問題
13	社会人基礎力を身につける⑪ 国家試験対策	第5章 企業人として遵守すべき規範とは なかなかなくならない悪徳商法の例Ⅰ・なかなかなくならない悪徳商法の例Ⅱ 国家試験対策問題
14	定期試験	2年間の学びの中で自身の成長につながった出来事は何か。また、その経験が今後どのように活かされるか(作文) 国家試験対策問題
15	定期試験振り返り	定期試験の振り返り・国家試験対策問題の振り返り